お茶の水女子大学へのご支援
「木戸孝允肖像画」受贈記念講演会を開催

このたび、お茶の水女子大学に「木戸孝允肖像画」の寄贈があり、これを記念して９月 30 日に大学講堂（徽音堂）で講演会が開催されました。

木戸孝允公 (1833-1877) は、文部卿としてお茶の水女子大学の前身である東京女子師範学校の設立 (明治８年 11 月) の布達をした人物です。寄贈された「木戸孝允肖像画」は、1878 年（明治 11 年）にイタリア人画家レオポルド・ヴィターリによって描かれ、吉備国際大学文化財総合研究センターにおいて約２年間をかけて科学調査と修復が行われた後、本学へ寄贈されました。

講演会には 100 名を越える参加者があり、郷学長の挨拶の後、木戸孝允公の曾孫にあたる和田昭允お茶の水女子大学理事（東京大学名誉教授）から「木戸孝允肖像画の発見」、奥田環（お茶の水女子大学アカデミック・アシスタント）による「木戸孝允と東京女子師範学校」の講演が行われました。さらに、科学調査と修復にあたられた吉備国際大学の下山進教授（文化財総合研究センター長）と大原秀行教授（文化財学部長）による「木戸孝允肖像画の科学調査と修復」と題した講演が行われ、修復にまつわる興味深いお話をうかがうことができました。

講演会開催後の 10 月 1 日から３日間、肖像画とお茶の水女子大学の歴史的資料がお茶の水女子大学歴史資料館にて一般公開され、来館者は３日間で 170 名を超えました。

お茶の水女子大学へ茶室の寄贈

この度、お茶の水女子大学に茶室のご寄贈がありました。

この茶室は、故伊東眞・美知子（宗美）様ご夫妻の遺族伊東哲様、吉田啓子（宗風）様、杉山幸子様がご両親の名前でお茶の水女子大学に寄贈されたものです。

伊東宗美先生は、50 年以上にわたり裏千家茶道の普及に努められ、平成 11 年 4 月より平成 18 年 12 月まで本学裏千家茶道部の指導、育成にもご尽力されました。そのような茶道の普及と振興にかけられた先生の意志を受け継ぐべく、本茶室が寄贈されました。

庵号「芳香庵」は、お茶の水女子大学が伝統ある女子教育の場であること、また、以前この地に梅の木が植えられていたことに因み、この茶室から女性としての教養・知性の香りが社会へ広がるように、との願いをこめて、利休居士第 15 代 鵬雲斎 千玄室大宗匠が命名され、あわせて扁額も賜りました。

お茶の水女子大学へのご支援